

# 「衣」で健康と美を

弘前大学とストッキングなどの製造販売大手「アツギ」(本社神奈川県)は、共同研究講座「健康と美医学講座」を同大大学院医学研究科に設置し11日、開設式を行った。同大が有する「岩木健康増進プロジェクト」から得られる健康ビッグデータを活用し、医学・生命科学と健康美を融合した研究

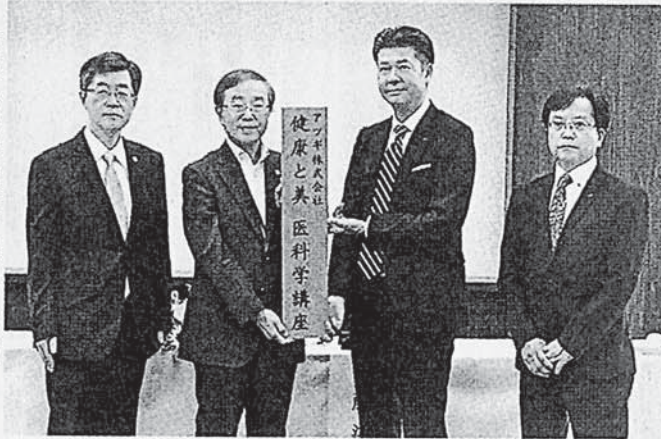
から、健康寿命を縮める疾病の予防につながる製品の開発、商品化を進める。生活必需品である「衣」から健康にアプローチし、身に着けることで自然に健康を意識できる衣料の確立を目指す。同大に開設された共同研究講座は今回で10例目となった。

(成田真由美)

## 弘大とアツギが共同研究講座

## 肥満補整下着など開発

共同研究講座「健康と美医学講座」の看板を掲げる(左から)若林副学長、佐藤学長、工藤社長、鶴取総役



アツギは1947年「すべての女性の美と快適に貢献する」企業として設立。ストッキング、ソックス、インナーウェアのメーカーで、日本のストッキング業界をけん引。日本や中国を中心にアジア各地で商品を展開している。

している。

研究講座では特に肥満に着目し、①体形の見える化(データ化)②補整下着の着用③健康教育(栄養・運動)④生活習慣の改善―を柱とした研究から、健康増進に向けた手段を検討。身に着けることで自主的に健康管理につながる補整下着といった、「美と快適」にこだわりのながら継続的に健康を意識できる衣料の開発を目指す。実証などで生産工場のあるむつ市との連携も検討中だ。

開設式には同社の工藤社長、鶴取総役、佐藤学長、若林副学長、中路特任教授、井原教授、COI推進機構の村下公一教授らが出席した。工藤社長は「講座では健康のための行動に移せない方でも、毎日着用する美しい装いから自主的な健康管理に導くことができないうまく取り組んで、弘大COIプロジェクトに新たな力を頂いた」とし、共同研究講座が10例目となることから「弘大の教育研究の成果としてしっかり位置付けていきたい」と述べた。

に健康を意識できる衣料の開発を目指す。実証などで生産工場のあるむつ市との連携も検討中だ。

講座は同大の中路重之特任教授、井原一成教授、沢田かほり助教、同社技術開発部の大石秀樹特任助教で構成。期間は2018年6月1日～21年5月31日の3年間。